

令和4年度第1回胎内市地域ケア会議地域ケア推進部会及び
高齢者虐待防止ネットワーク部会に関するご意見等
※委員の皆様から頂いたご質問への回答は、赤字標記しています。

議題1「高齢者虐待の状況について」

- ・虐待相談の内容を丁寧に分析され、早期発見の大切さ等必要な課題を基に対策を検討されており、また通報件数が年々増加していることが警察等関係機関との連携が深められることがうかがえました。
- ・困難な問題と思われませんが増加傾向の現状に何らかの対応が必要かと思えます。
- ・住民、専門職共に虐待への意識が高くなってきていることを感じる。虐待者自身も障がい、病気等様々な問題を抱えていることも少なくないことから、虐待者への支援も一緒に考えていく必要性があると思う。
- ・相談件数でカウントされていない数はけっこうあるんじゃないかしら。地域高齢者家庭を対象に注意のアンテナを張り「アレ？」に早く気づいてやれるといい。
- ・2→一時的な喧嘩であっても家族間えはしこりが残らないだろうか。一度の通報で済んでいることを願う。
- ・3→元気であるが故の被虐待は辛い話であるが、家族のみでは解決は難しいと思う。未申請宅であっても、定期的なサポートがあると少しは関係が和らぐのでは・・・。
- ・高齢者は自分の事を自分で出来なくなると精神的に不安定になり暴言も多くなりそれを支える家族も大変になり虐待まで行かなくともトラブルにもなり高齢者の支援等みまもりは地域で出来るといいですね。
- ・この根深い問題に有効な解決策は本当にあるのだろうか？と自問自答しています。担当者の方の苦労も大変かとは思いますが。現時点で出来るかぎりの介入サポートをお願いします。
- ・相談件数が増えたことは良い傾向だと思う。施設利用など促し、外部からの継続的な見守り繋げてはどうか。
- ・胎内市の高齢者虐待の実態について資料の方、拝見しました。年々右肩上がり相談件数が増加している事に脅威を感じました。被虐待者の年齢層についてもまんべんなく起きており、今後も高齢者が増えるにつれて虐待件数も増えていく可能性が高いと感じました。当施設においても、職員教育の中で虐待を起こさないよう周知、徹底していきたいと思えます。
- ・地域包括支援センターとして早期対応と予防のため各関係機関との連携や養護者支援に努めていきたい。
- ・市と警察で虐待が未然に防げるケースが増えているのは良いことだと思います。逆に、精神疾患や認知症で家族に暴力暴言を吐くこともあるので、その事から虐待にならないよう様に介護認定を受けてお互いの気が休める場をつくるのが大切だと思います。
- ・虐待者になる精神疾患・発達障害を持つ人に健康づくり課ではかわりを持っていきます。親である高齢者が70代で認知症もないうちに決心してくれて、子どもを医療につなげられると良いと思えます。親子で病気を認められる対応や関

係が変化する気がしています。

・介護者が相談できる人がいない。相談する機会がない等の理由で一人で抱え込んでいるケースや、介護者や家族が精神的な疾患を抱えるケースが増えており、感情を処理しきれず、虐待につながるケースが多いように感じる。虐待と認定されても完全な解決には至らない（サービスを増やすことで金銭面の負担が増）。市としてサービス増以外の対応策についての検討も必要なのでは。

・利用者、その家族、心身を取りまく環境の中での変化、気づきを報告、関係機関との連携が大切だと思っています。

・オンラインでの高齢者虐待防止研修会を開催し早期対応の大切さが伝わると良いと思います。

・警察においても受理件数は増加傾向にあり、今後とも他機関と連携して解決にあたっていきたいと思います。

議題2「令和4年度認知症施策について」

・認知症疾患医療センターや複数おられる認知症地域支援推進員等、地域の認知症対策を推進される機関と連携しながら、コロナ禍でも先進的に取り組まれておられると感じました。

・事業については今後とも積極的な推進が必要・有要と思われます。

・これからの支援や活動の幅を広げていくために、体系化や仕組みづくりに取り組む必要性を感じる。

→市民の方が認知症と診断されても、安心安全に過ごせる市を目指し様々な事業を実施していますが、今後も、事業の検証を行いながら、効果的な取り組みや仕組みづくりを関係機関と協議しながら行っていきたいと思います。

・毎年、様々な施策が行われている。利用者や参加者の層が広がり、理解者が増加することが「認知症になっても大丈夫な胎内市」に繋がるのだと思う。

・虹色カフェに参加し毎回認知症に関する情報や学びがありました。コロナ前は施設の方々とふれあい、それが学びにつながり楽しく対応が出来ました。コロナ禍でも前向きに出来ると良い。模擬訓練も継続が大事かと思っています。

・認知症施策の最も重要な点は「認知症発症を抑える」ことと考えています。地域の中で、高齢になっても楽しめるなにかを作り出すことが必要と考えます。

（胎内ディアーズが地域の阪神タイガースになることを願いつつ）

・街あるき声かけ見守り訓練は、住民参加型で施策の周到にとっても良いと思う。今後は、実践に結びつく体制が組織化できるとさらに地域連携ができると思う。

・様々な事業があることは知っていました。以前、母を「虹色カフェ」に誘おうとしましたが、本人の意思で連れていけませんでした。介護する人も仕事があったり余裕がないとなかなか参加できないのが現状です。学校や老人会への働きかけがあるのはよいと思います。

・地域共生ケアパスの普及をあげてますが、どのようなものなのかの説明を市報で行うのも認知症理解をすすめるものではないでしょうか。研修会に参加してみたいと思いました。

・市民向けにセミナー、講演会開催などで認知症への理解度出てきていると思

ます。行方不明者への声かけができており無事発見されています。

・胎内市認知症市民セミナーを3回コースで実施。認知症講演会も9月23日に予定されているので、是非参加したいと思います。認知症になっても住みやすい市を望みます。

・認知症に起因する行方不明者事案も増加しており、同じ人が二度三度と繰り返さない施策を考慮願いたい。

議題3 「令和4年度新発田地域在宅医療・介護連携推進事業計画について」

・各々の事業項目に沿って、数多くの必要な事業を管内市町と連携し積み重ねてこられ、確実に成果をだしておられることが良く分かりました。その取組の結果、明確になった課題の具体的な内容や、取組の優先度をどのように考えられてこられたのか方向性について話を聞ける機会があるとありがたいと感じました。

→令和3年度は、宿泊サービスを実施している事業所に看取りに関するヒアリングを実施。どの事業所においても看取りを日常の療養支援の一部として捉え、取り組んでいくことが必要と感じましたが、看取りに向けた人員配置に課題があり、看取りに関する専門職の研修の機会を引き続き実施していく必要性も感じました。

昨年度も実施した、医療介護関係者のスキルアップを目的とした「エンドオブライフケア研修会」ですが、専門職から「人生の最終段階にある人への苦手意識がある」との意見が多いことから始めたもので、傾聴する力を養う研修会であり、参加者からは、終末期の人へのケアのみならず日常的に苦しみや悲しみを傾聴する場面において実践に活かすことができるとの感想が多く、今年度も継続して研修を実施していきます。

・看取りに関しては近年施設でも可能ということで、医療機関との連携もより必要となってくると思われます。

・事業所へのヒアリングにより、現状や課題が明確化しよいと思う。その上で、今後の方向性について考えていければよいと思う。

・資料4の中でも「次年度の方向性を受けての資料5だと思うが、読み取りにくかった。資料5の項目の順序や方向性を受けた具体的な記述等を工夫すると、資料4（前年度）を受けた資料5（今年度）であることが分かりやすいと思った。

・年々高齢者の増加に伴い在宅医療が出来、地域で見守ることか在宅で看取りができるのかな？コロナの中でも前向きに事業計画の実績を積み重ねていると思いました。

・高齢者への中心であるべき施策であると考えます。

・出前講座では、地域で「在宅医療と人生会議」について住民に考えていただく機会を持つことができ良かった。事業所やケアマネとどのような連携ができるか提案していただけたとなお良いと思う。

・長く施設で暮らすとそこが「自分の家」になって自宅での看取りも難しくなるようです。築地福祉会でも「人生会議」の出前講座をしていただきました。死ぬまで自宅で過ごせ家族に見守られて亡くなるのは、とても幸せな事だと思います。

・新発田病院、様々な医療機関と連携し取り組んでいて素晴らしいと思います。

- ・住み慣れた自宅に戻りたい、生活したいと望んでいる人が多いと思います。在宅介護する中でも在宅医療の充実を望みます。
- ・何年前に出前講座をサロンで呼びしお話を聞きしました。人生の最終段階のケアについて勉強になりました。実際、義母も毎日訪看が来てくれて手厚い看護をしてくださいました。

議題4 「令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画について」

承認：18

非承認：0

- ・黒川地区で通いの場がなかなか立ち上がらないので、より小規模な形でもよいので、住民の方から声が挙げれば考えていきたい。
- ・コロナ感染対策を講じながら介護予防教室を続けているので、高齢者が増加しているのに、要支援、要介護が増加していないのはすごいと思いました。
- ・新型コロナも終わりに近いと思います。いままで十分にできなかった対面でのサポート業務を来年度は拡充できるのではないのでしょうか。
- ・地域介護予防活動支援事業の中で、黒川地区の通いの場はぜひ健康づくり課も一緒にかかわらせていただきたいです。サロン活動は山の方の人達、世話役の人が亡くなると再開できないし、人口は減少しているし、難しい地域なので、にこ楽・胎内の活用もあわせて一緒に検討させていただきたい。

議題5 「介護予防支援業務を再委託できる居宅介護支援事業所の指定について」

承認：18

非承認：0

- ・お願いできる事業所が増えるのは良い。

その他意見

- ・日々、相談を受ける中で、相談内容が多岐に渡るのを感じている。上越市の重層的相談支援体制のように規模は大きくなくとも現在市で行っているまるごと相談のような、ワンストップで相談を受け、それぞれの専門機関にお願いする機能を各包括が担えるようになっていく必要があると思う。また、身寄りがない人、あっても関係性が悪く疎遠な人への支援の困難さがある。専門職が相談できる窓口がほしい。
- ・在宅医療・介護連携推進事業にいつもご協力いただき感謝申し上げます。引き続き出前講座等ご協力を賜りますようお願い致します。
- ・毎回、丁寧に資料を作成していただきありがとうございます。年に数回かかわ

らせてもらい、胎内市及び周辺地域の取り組み状況や社会の変化に対応する事業等について知ることができ、役得だなと思っています。対応すべき案件が多くなり、勤務時間越えの日数も増えていることと思います。ご苦労様です。どうぞ自愛ください。

・地域包括支援センターの担当者の方は、前向きにすぐ対応してくださって地域には大変助かっています。色々な問題もたくさん出てきていると思いますが、なくてはならない支援センターなので見守っていただきたい。

・地域包括支援センターの業務にたずさわるみなさま、日々おつかれさまです。新コロのわずらわしい感染対策が不要になる日は必ず訪れると思います。そうすれば、この3年間の制限された業務で得られた経験をステップにさらなるサービスのクオリティ向上がもたらされるとと思います。引き続き頑張ってください!!応援しています。

・コロナで活動が制限される中でも、弱い立場の人の味方になって「やさしく接してもらって感謝している」という声をたくさん聞きます。みなさんの仕事に多くの人が助けられていると思います。私もその一人です。昨年度、2人の孫が生まれ、毎日忙しいけどとても幸せです。そんな中、一人で出産する女性の話をテレビで観ました。産む母親の苦悩、生まれる子の将来の不安…見ていて切なくなるばかりでした。我が家はとても恵まれています。何にもお手伝いはできませんが、みなさんの活動に感謝し応援したいと思います。これからもよろしくお願ひします。

・困難事例など健康づくり課の地区担当と多く共有していますので、今後、コロナ等で健康づくり課動けない時など警察、保健所と医療機関対応なども具体的に検討できたらと思います。みらいが動けない時は他包括が代行できる部分は多いと思いますが、市（行政）がやらなければいけないことは健康づくり課が代行すべきこともあるかと思っています。一緒に検討をお願いします。

・高齢者虐待について、虐待を受けている人が通報したことで、それ以上の虐待をうけるのではないかと心配され取り消された方がいらっしゃいましたか。そのような場合でも定期的面談なりフォローはされているのでしょうか？

→警察に話したが、虐待者からの仕返しを恐れて警察官との面談で「なかったことにしてほしい」と訴えた方はいました。そのような場合でも、警察から市へその旨記載された通報票が届くため、市では本人への面談やその後のモニタリングなどを地域包括支援センターと協力しながら実施しています。

・地域包括支援センターでは住民のために住民の事を思って手厚く対応してくださるので感謝いたしております。ありがとうございます。